夕刊
いわき民報
発行所
平市田町48 電381 1222
いわき民報社
印刷発行人 田原登
編集兼

木材の百貨店
築米 一般建築材
秋田杉 木曽檜 津島松
ラワン ベニヤ板
農業車輛材 その他
木材店
平市五丁目電二九〇 五五六

墓園の出来た体育館

廣さ二萬五千坪
競輪場西方に設置

平市では二十八年度から五カ年計画で広大な墓園を設置するため目下建設省に補助認可を申請中である、設置場所は競輪場西方に当る谷川瀬字根本作地内（旧射撃場）の二万五千坪に亘る山丘地帯で市当局では発展する将来の大平市の都市美を形成する上から是非必要なものであるとして関係地主（三十五名）に過般来その協力方を懇望して来ている

三分の二は公園
建設豫算は一千万圓

一方地主側は都市計画事業により移転を余儀なくされた墓の前欣浄寺の単なる移転のため口実だと解釈し古跡治町のほ提院の空地に移転してはどうかと一単なる墓場と解し仲々納得していない模様で市当局では将来発展した場合、現在市内にある墓地面積では不足を来たしそれに欣浄寺の移転問題もあるが建設省では福島、郡山、白河、平の四カ所に近代的な公園を併設した墓園設置の計画を考慮している

一方、本年度内に競輪場裏側道路からこの墓園に通ずる延長百五十米、幅延四米（将来六米の計画）の道路を設置するため二十九日十一時半から市役所委員会室に道路要地関係地主十一名を招き市側から伊藤助役、大塚土木課長、山口平復興建設事務所長、水竹土木委員長ら出席、種々事情を説明、市当局に対する協力を要望した、この事業は市負担により約五十万円を見込まれている

欣浄寺の移転
問題解決へ

平復興建設事務所では堂の前欣浄寺の移転について当初檀家の反対にあっていたが最近は都市計画事業上、已むを得ないものとして卓急に移転するよう逆に檀家の要望が出て来ているため、市当局の墓園計画に添ってこの工事を進めることになった、当初移転費として四百五十万円（坪当り九千円）の予算申請を行っていたが各都市の状況によると坪当り二千円乃至二千五百円となっているため三百万円程度に決まれば良いとみている、欣浄寺に埋葬されている墓は古い寺だけに三千五百柱と推定され、現在檀家は七十名このほか

合併問題で公聴會
きのう合戸公民館で

永戸瀬輪村では二十九日午前十時から合戸公民館に同村瀬輪地区の商野部落（人口八百名）の離村問題に就いて村当局主催の公聴会を開き村民約五十名が出席熱心に討論された

結局、商野部落は地理的条件から内郷町と合併したいとの主張に対し瀬輪地区の大利、榊小屋部落では過般区長会を開き、純農村として現状の儘でゆきたいとの話合が決まっており何れ重要問題だけに簡単に結論が出せず今後調査研究することになり散会した

この問題は去る二十一日定例村会に区長高萩信孝氏、村議高萩副氏ほか鉱泉業者などから離村の懇請書が出されその結果この公聴会を開くに至つたもので大和田村長は現場維持を希望している、同村は人口五千五百名、戸数千五百戸で永戸がその七割、瀬輪が約三割を占めている純農村で商野部落（八百名）は鉱泉部落として地理的に内郷に合併した方が便利であるため今後もこの運動を積極的に推進する筈だが成行は注目されている

電通労組を結成

全国電気通信労組平支部（旧全逓平支部）結成式はこの程開き役員を次の通り選任した、同支部は平事件以来解散したまゝ未結成となつていたもので支部組合員は男女二百二十名

▼支部長、菱川清徹（管理所業務係）▼副支部長、蛭田貢司（電話局）▼書記長、新妻礼次郎（管理所施設）

小名濱でも結成

小名浜電報電話局ではこの程全国電気通信労働組合小名浜電報電話局支部（略称、全電通小名浜支部）を結成、二十九日次の通り役員を選任

▼支部長、鈴木公義▼副支部長 居目一▼書記長、桜井昇陽 小枝子、伊藤止一▼蛭田要▼習字、高秋智子、向面久美子、加茂幸雄、矢野口禹道、川治清勝 蛭田勝雄

◇山田中学校▼図画、下山田安久、横山君子、安斎郁、稲本五郎、助川光子（特）緑川節子▼習字、大津育子、蛭田昭夫、大平まさ子、蛭田良子、田子源作、沢田止一

乳幼児検診

五日から内郷

内郷町では保健所の後援で五日から八日まで四日間毎日午前十時から午後三時までの零才から五才までの乳幼児の検診を行う、日程次の通り

▼五日 御厩公民館（御厩、小泉、御台境、下釜）▼六日 綴保育所（内町、綴、高坂、広畑柳間、浜井場）▼宮保育所（宮一円）▼白泉分教場（白水一円）

各河川調査
水利開發會

水利開発期成同盟会では会長松本久吉氏ほか役員十五名は三十日好間川水量調査の上更に四倉鮫川本流並に入遠野川水量を調査し、鮫川堰の取水状況、上流鮫川サイホン並に鮫川堰の実態と四時川の水量を調査し植田町で解散した

天気予報

三十日【今晩】北西の風良い天気ですが明朝冷え込む【明日】北西のち南の風よい天気ですが午後薄曇が拡がる、海上今晩明日穏か、明後日多少波立つ

照井常務ら欧米へ
海外化學工業を見學

海外の化学工業状況を広く見学して化学日本の発展のため十月十二日、日本水素常務取締役照井総治氏が英国、仏国、西独ベルギー、オランダ、フインランド、スイス、イタリー印度などを見学に行く予定さきに米国へ渡つた照井氏は十一月末頃欧州へ廻り、大塚氏と行動を共にし、一月末帰国の予定である

初の教委會
一日小名濱で

小名浜町では初の教育委員会を一日午前九時より公民館で開き、次の五議案について協議する

▼正副委員長の選任▼会議規則の設定▼会議傍聴人規則の設定▼公告式規則の設定（同町本町二十一ほか四カ所）▼公印規程の設定

床屋さんの試験始まる

床屋さんが試験制度になつて始めての実地試験が三十日午前九時から平市公会堂で開かれた、これは第二回理容美容師の実地試験で三十、三十一の両日に渡り各床屋さんの無資格者三百七十名が受験する、ステージ上で廻転イスをとりつけ背番号をつけ二十分間で散髪するわけだが、受験者の大半は何十年という経験者で『いまさら試験なんて恥ずかしいよ』といいながらも真剣な顔附きであざやかなハサミさばきを見せていた、審査員はこれまたいずれも床屋さんのエキスパートばかり、この試験に慣実はありませんとこれまた真剣な審査ぶり（写真は試験風景）

名選手をまねき
十六日愈よ對抗試合

磐城陸上競技協会主催の平市営陸上競技場開き日本大学陸上競技部並に オリンピック選手招待陸上競技会は平市制十五周年を記念して十一月十六日午前九時から市営競技場で挙行される、磐城チームと対抗試合を行う、日大チームはアジアオリンピック大会ハンマー投選手の優勝者釜本文男氏の率いる東部大学陸上競技会の雄で選手はボストンマラソンの優勝者田中茂樹ら十八選手でいずれも強力そろいで大いに楽しまれる、また当日オリンピック日本代表選手の歓迎招待競技も行われる、招待者は次の各氏

▼百米 走巾跳、田島政次（中央大学）▼三百、四百米 岡野栄太郎（同）▼八百、千五百米 望矢芳隆（同）▼ハンマー投、釜本文男（日本大学）▼三段跳 飯塚秀男（国鉄）‖交渉中▼円盤、砲丸投 吉野トヨ子（山梨）‖交渉中

文化祭開く
湯本二中で

湯本二中の第五回文化祭は十一月一、二の両日盛大に開く、一日は生徒、二日は一般に公開することになつておりプログラムは各教科クラブの研究発表、父兄慈善の書画骨董展、バザー、食堂経営のほか演劇部の『銀の燭台』一幕、音楽部の『子供マーチ』ダンス部の『死の舞踏』『森の精』の発表会英語弁論大会など多彩なので盛会が予想されている

大部分の就職決る
五日職業補導所の卒業式

就職難をよそに平公共職業補導所（自動車修理工養成）の第一回卒業生二十七名のうち既に二十二名の就職が決まり十一月五日の卒業式を待つて実社会へ巣立つ、卒業生は昨年十一月第一回補導生として入所し一カ年の修業をしたもので既に市内の各自動車工場へ実習に出向いて顔も腕も売れているため就職は至極スムースに運び就職難に悩む人々をうらやましがらせている、なお残る五名も卒業式までには就職が決まることになつている

習字と圖書コンクール
菊多の入選者

菊多方部中学校の習字及び図画のコンクール大会は二十九日植田中学校で開催した出品点数一四四点厳選の結果左の通り入賞内特賞十一名

◇植田中学校▼習字 松本澄子 胡口芳、斎藤洋一（特）櫛本登 鈴木文雄、吉田映子▼図画 高木シゲ子、野口三郎、河野はま子（特）水野常雄、木村佑子、渡辺栄子

◇錦中学校▼図画、平林せつ子 金成フミ、三石政子、小石川正昭、山中良子、加藤進（特）▼習字、渡辺孝子、篠原健（特）星正子、高谷数子、渡辺二、遠藤良子

▼勿来中学校▼図画、横山健、横山みね子、栗林みどり、上野久義、高橋一郎（特）金子操▼習字、安達光子、袖野静子、蛭田寿子、赤津律江子（特）横田人美、矢野文彦

◇田人中学校▼図画、坂津せつ子、中川清次、黒沢盛人、渡辺数子、中原喜一郎、岡部ミサ子▼習字、園部洋蔵、鈴木保守、緑川幸子（特）蛭田清子、鈴木安藤、横山菊江

◇川部中学校▼図画、川面茂松 菊地泰子（特）高橋敬子、西村

水戸の菊人形
10 15 ― 11 末
水戸観光協会連合会
水戸観光連盟
水戸商工会議所
後援

優良メリヤス洋品大特価売出し
11月1日―5日（冬物お買徳週間）
紳士向 本ラクダメリヤス類新入荷
赤札特価奉仕品提供
特賞テレビの抽籤券付
福助足袋 賣出し中
正 中野洋品店 平二三 電5
専 （平専門店会の店）

七五三 お祝着
可愛らしいお召物を豊富に取扱えました
平信販チケットを御利用下さい
平三 三井呉服店

節婦など四名表彰

一日内郷町制十周年祝典

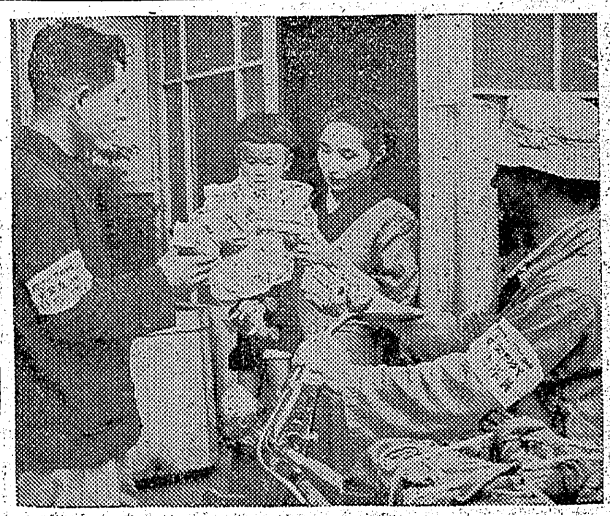
内郷町では十一月一日行う町制施行十周年記念式典の席上で表彰する節婦と世の亀鑑となる人を調査中だつたが各部落から推せんされた十七名の中から次の四名を選び表彰することになつた

▼小島字作田農坂本ミヨさん(四七)十八才で夫信男さんと結婚したが関節炎で亡くなられてから病弱な父母を看病しながら一男一女を抱え農業にはげみ女の細腕で三十四年間困苦欠乏と戦つて来たもので戦争中は内郷町婦人会支部長として活躍し昭和二十五年には町内のトツプを切つて末仁人会を結成し現在副会長として尽力している

▼綴字舟場一平市福島産業勤務安井米次郎さん(四)と生来の子供好きだが一家に子供がないので里親となり身よりのない孤児を育てようと昭和二十二年ころから岩林若葉君(二)伊藤治公氏さん(三)村杉順子さん(三)の三人を次々と引取り慈父のように慈育して来たもの

▼宮字滝六〇選炭夫加藤トミ子さん(三)夫友雄さんが戦死してから幼児二人を抱え苦しい生活と戦いながら長女フミさん、次女フジイさんをいじけさせず模範少女に養育して来たもので、フミさんは昭和二十五年十一月町長から孝女として表彰されておりトミ子さんは他力に頼ることなく幾度生活保護をすすめられても固辞して来た

▼綴字秋山四二組打業吉田ミサオさん(四四)夫と戦災で死別してから音治さんの後妻となつたが夫が脳病に罹つたゝめどん底生活に転落その後十二人の子の母として辛苦と戦い子供の手助けで網打を開業したが信用を博して成功、昔の苦しい生活を忘れず戦災の子等を集めて網打ちさせているほか住宅まで建てゝやり慈母のような温い手を差しのべている



柔道を稽古

鉄道公安員

平鉄道公安室（公安員二十二名）では柔道稽古を二十九日から五日まで平地区磐城郵便局で白井晃五段の指導を受けて腕を磨き上げている、なお初の室内勝抜き試合は五日午後一時から行う

48萬貫水揚げ

サンマ十月中旬分

小名浜町県水産試験場では小名浜港の十月中旬分（十一日―二十日）サンマ水揚げ数量を二十四日次の通り発表した前年度の同期中の水揚げと比較すると三十七万五百七十八貫増し、なお最高値百十三円、最安値二十円

▼地元船（三十九隻）十九万四千三百六十三貫▼その他県内船（四隻）二万三千七百三十五貫▼県外船（四十六隻）二十六万九百三十貫▼合計（八十九隻）四十七万九千三十五貫

漁船故障

無事に曳航

三十日午前七時ごろ千葉県銚子港所属サンマ漁船新昇丸（一四トン）＝乗組員二十七名＝はサンマ二千貫を積んで宮城県女川港から銚子へ入港中、小名浜東南東五十マイル沖合にさしかゝつた際機関に故障を起し航行不能になつたと救助を求めてきたので小名浜海上保安部巡視船うづらが出動現場へ急行、同午前十時五十分ごろ同遭難船を発見、午後曳航して小名浜へ入港した

定置網漁業區域告示

少年泥

小名浜海上保安部では豊間町漁協組（組合長鈴木福太郎氏）から願出のあつたマグロ定置網漁業施設による次の海域の航路告示方を二十九日第二管区海上保安本部へ通報した、操業期間は十月二十八日より明年一月三十一日まで

航路告示指定海域とは同町大字薭磯字宿崎塩屋崎灯台（北緯三十六度五十九分、東経百四十度五十九分）を基点した東経百十一度より千五百米、同百三十七度より千八百米、同百十七度より四千二百米、同百七度より四千六百米、同百十七度より千八百米、同百二十七